

日本生理学会生理学エディケーター認定制度委員会ワーキンググループ(江崎誠治, 奥村哲, 鯉淵典之, 佐藤麻紀, 椎橋実智男, 曾我部隆彰, 中島昭, 南沢享)「Record」生理学エディケーター認定制度の10年を振り返る. 日本生理学雑誌 86 (4) : 75-86, 2024.の補足資料

この補足資料では、上記記事（以下本文）において、字数の関係で本文に掲載できなかった WEB アンケート調査における全ての質問項目と自由記載回答（206 件）の要約をまとめる。

WEB アンケート調査（アンケートの全質問項目）

（概要：アンケートは 2022 年 12 月 26 日から 2023 年 2 月 13 日の期間、Google フォームを利用して、日本生理学会の全会員を対象に無記名式で実施された。質問項目は下記の通りである）

Q1. 主たる勤務先を 1 つ選んでください。

Q2. 教育研究機関のご所属の方は、学部・研究科等を 1 つ選んでください

Q3. 職位または職種を教えてください。1 つ選んでください。

Q4. 日本生理学会の会員種別を 1 つ選んでください。

Q5. 日本生理学会の通算会員歴を 1 つ選んでください。

Q6. 年齢を 1 つ選んでください。

Q7. 性別を 1 つ選んでください。

Q8. 現在の教育へのエフォート率として、最も近いものを 1 つ選んでください。

Q9. 教育へのエフォート率のうち、生理学教育の占める割合として最も近いものを 1 つ選んでください。

Q10. 生理学エディケーター認定をお持ちですか？ 1 つ選んでください。

Q11. 生理学エディケーター認定を受けた理由として、当てはまるものをすべて選んでください。

Q12. 次回の更新の際に、生理学エディケーター認定を更新しようとお考えですか？いずれか、現在のお考えに近い方を選んでください。

Q13. 生理学エディケーター認定を更新しないとのお考えの理由として、当てはまるものをすべて選んでください。

Q14. 生理学エディケーター認定を受けた後、更新されなかった理由として、当てはまるものをすべて選んでください。

Q15. 生理学エディケーター認定を受けようとする理由として、当てはまるものをすべて選んでください。

Q16. 生理学エディケーター認定を受けない理由として、当てはまるものをすべて選んでください。

Q17. 生理学エディケーター認定を受けて良かったこととして、当てはまるものをすべて選んでください。

Q18. 生理学エディケーター認定を受けたことで(あるいは受ける途上で)感じたデメリットがあれば記載してください。自由記述

Q19. 生理学エディケーター認定制度によって、日本生理学会大会参加のモチベーションや頻度が高まりましたか？最も近いものを 1 つ選んでください。

Q20. 生理学エディケーター認定制度によって、日本生理学会員である意義や学会への帰属意識は高まりましたか？最も近いものを 1 つ選んでください。

Q21. 最後に、生理学エディケーター認定制度についてのご意見をお聞かせください。要望すること、良かったこと、改善すべきこと、今後期待することなど、自由に記載してください。

アンケート自由記載のまとめ

Q21. の自由記載の回答として、合計 206 件の貴重なご意見をいただいた。本補足資料においては、まず、意見の全体的な傾向について概観したうえで、さらに、本文の表 3、図 4 に示した回答者のカテゴリごとにみられた回答の傾向についてカテゴリごとに要約する。なお、カテゴリ 1 は今後認定の更新もしくは新規認定を希望している回答者、カテゴリ 2 は認定を受けたが今後更新する予定のない回答者、カテゴリ 3 は今まで認定を申請せず今後も認定を予定していない回答者である。なお、本まとめは、全ての自由記載意見を生成 AI（ChatGPT 4o）に読み込ませ大まかな要約を行ったのちに、WG メンバーが内容の確認をおこなってまとめたものである。

自由記載意見の全体的な傾向

全体として、「制度の意義は理解されているが、認定の価値向上と運用の改善が急務」という回答が多かった。制度の意義、課題、改善点について、代表的な意見をまとめると以下ようになった。

1. 制度の意義

認定制度には生理学教育の質的向上や学会の発展に貢献する可能性を指摘するポジティブな意見が多く見られた。また「若手研究者のキャリア形成や教育に対するモチベーション向上に寄与する制度である」、「教育プログラムの提供が、教育についての学習機会を与えている」などプラスの評価が目立った。

2. 課題

課題の指摘として代表的だったのは、まず「認定制度の実質的な価値が不明確であり、教育の質向上に直接結びついていない」などの指摘であった。また「学会外での認知度が低いため、制度についての広報を強化する必要がある」という指摘も多く、関連して「認定取得のメリットが学会内外に対して必ずしも明確でなく、キャリアに直結しにくい」という指摘もあった。

3. 制度の改善点

制度の改善点については、更新制度についての指摘と認定手続きについての意見がいくつか寄せられた。

更新制度の見直しの意見としては、費用負担が大きく、その軽減を求める声が多かった。また学会参加を必須とせずに、オンラインでの更新のためのポイント取得を可能にしてほしいという要望があった。また更新手続きについては、より簡素化し、継続しやすい制度へ改善してほしいという意見があった。

認定基準については、「現状の基準では教育能力を証明する仕組みになっていないため、試験や実技を導入すべきである」、「一定の役職以上の者には自動的に認定を付与するか、より明確な審査基準を設定すべき」など、厳格化を求める意見と、簡素化を求める意見が両方とも寄せられた。

認定に必要な出席ポイント制度については、5 年以内に 15 ポイント取得の規定が厳しいので、取得しやすい仕組みが必要という意見や、学会大会において教育プログラムと研究発表が重なることで、受講機会が制限されることを問題として指摘する意見が多くあ

った。関連して地方会やオンライン講習でもポイントを取得できるようにしてほしいという要望も寄せられた。

4. 認定制度の運用改善についての意見・提案

- 社会的価値の向上については、以下の様な意見・提案があった。
 - 他学会と連携し、共通の教育者資格制度を確立する。
 - 認定が就職や昇進に有利になる仕組みを作り、学会外での認知度を向上させる。
 - 取得者の体験談を学会誌やウェブサイトで共有し、認定の意義を明確にする。
- 教育プログラムの充実については、以下の様な意見・提案があった。
 - 教育手法に関するワークショップや専門セミナーを増やし、実践的なスキル向上を支援し、教育現場での有用性を向上させるべきである。
 - 模擬講義の拡充や、教育実践の場を提供する試験制度を導入する。
 - オンデマンド配信やeラーニングの活用で、柔軟な学習機会を提供する。
 - よりキャリア支援につなげられる制度として運営すべきである。

以下にカテゴリーごとに特徴的だった意見についてまとめる

その前に、各カテゴリーの分類について、本文の表3を再掲する。

表3. エducator認定の有無と更新・認定意思に基づく回答者のカテゴリー分類

カテゴリー	更新の状況	現在の認定の有無	説明
「カテゴリー1」： 更新・申請予定 (68%)	更新済・更新予定 (26%)	有	現在認定有，更新経験有，次回更新予定
	未更新・更新予定 (15%)	有	現在認定有，更新経験無，今後更新予定
	未認定・申請予定 (27%)	無	現在認定無，今後申請予定
「カテゴリー2」： 元認定・非更新 (9%)	更新済・非更新 (4%)	有	現在認定有，更新経験有，次回更新予定なし
	未更新・非更新 (2%)	有	現在認定有，更新経験無，今後更新予定なし
	元認定・非更新 (3%)	無	現在認定無，更新せず
「カテゴリー3」： 非認定 (23%)	非認定 (23%)	無	過去・現在ともに認定無，今後の申請予定なし

● カテゴリー1（更新済み・更新予定・申請予定の回答者）に特徴的な意見・提案

このカテゴリーの回答者の多くは、制度の意義については概ね肯定的な評価をしつつ、そのなかでさらなる改善を求めている。また若手研究者のキャリア形成に一定の貢献があるという評価もあった。その中で特に認定の社会的価値向上やさらなる活用（キャリア支援）などを求める声が多かった。課題を指摘する代表的な意見としては、認定制度が教育の質向上に直結せず、単なる資格にとどまっている可能性や、教育者の評価基準としての機能を強化すべきであるという提案があった。より具体的な改善提案としては、認定取得のためのハードルを適正化（経験者の特別措置、試験導入）を求める声や、学会活動とポイント取得のバランス調整（教育プログラムと研究発表の時間帯調整）、オンライン受講の拡充（地方会での取得機会増加）を求める声が多くあった。

- カテゴリー2（認定済みだが今後更新を希望しない回答者）に特徴的な意見・提案

このカテゴリーの回答者の回答からは、認定制度は教育のモチベーション向上や学会内での信用向上には一定程度貢献しているというようなポジティブな評価とともに、現状の仕組みでは教育能力の証明として不十分であるという意見や、運用についての課題を指摘する意見が代表的であった。そのため試験導入や認定基準や制度の透明性向上を求める提案があった。特に「認定取得のプロセスがスタンプラリー化しており形骸化している」という指摘など、認定の実質的な価値が不明確で、教育能力の証明としては不十分であるという意見がみられた。また、そもそも認定を取得しても実質的な評価が得られにくい問題を指摘する声もあった。代表的な改善提案としては、試験や実技の導入（教育能力を実証できる仕組み）を求める意見や認定基準の透明性向上（認定費用の用途開示、評議員の推薦書廃止）。ポイント制度の柔軟化（年をまたいでのポイント保有、学会外での取得機会拡大）などの提案があった。

- カテゴリー3（未認定で今後も取得予定のない回答者）に特徴的な意見・提案

このカテゴリーに属する人の回答には、全体として認定制度には関心を示し、生理学教育の向上には寄与する可能性を認めつつも、問題点を多く指摘するものがみられた。特に認定の実質的な価値や認定基準の根拠が不明瞭ななかで、費用や運用に問題を感じるという回答や、認定方法や教育内容の改善が必要だという意見が多かった。課題を指摘する代表的な意見としては、「認定が教育の質向上に結びついているか不明で、単なる学会イベントになっている」という意見や「認定取得の実質的なメリットがないため、キャリア形成に直結しない」という批判があった。特に、学会外での認知度が低く、制度の価値が明確でないことを指摘する意見が多くあった。改善の提案としては、制度の公平性と透明性向上（評議員の推薦を廃止することでそのバイアスを排除すべきである、費用の適正化が必要など）や教育内容の改善に資するために試問や実技試験の導入、教育方法の具体的な指導を行うべきではないか？という意見があった。また、経験者への特別措置など認定方法の見直しを求める声や、オンライン受講の拡充を求める意見がここでも共通して確認された。

以上をまとめると、全体として、「制度の意義は理解されているが、認定の価値向上と運用の改善が必要」という意見が多くあった。生理学エデュケーター認定制度委員会では、これらの意見を参考に、さらに制度の価値を高められるような制度の運営や改定を検討していきたい。